

## ♪「第3回 あこけん ミニコンサート」ぶらり訪問記♪・東京労音アコーディオン研究会

2008年11月15日(土)14:00開演

会場：労音十条会館 2階ホール

JR京浜東北線「東十条駅」南口徒歩10分

JR埼京線「十条駅」南口徒歩10分

出演者：アコーディオン(20名)

ピアノ(黄地まり) 歌(加藤浩文)

入場無料

■こじんまりとした会場は十条駅から徒歩10分ほどの住宅地の中にありました。ここは第2回関東アコーディオン演奏交流会の会場に使用したことのある懐かしいホールです。

■オープニングは全員合奏で「涙そうそう」と、初めて聴く「海の歌」(朝鮮の民謡で日本のソーラン節のような元気の良い歌だそうです)の2曲演奏。オープニングの後は全体を3部に分けたプログラムで構成されていました。

### ♪第1部 心にしみる歌模様……………

「ドナドナ」、「エーデルワイス」と重奏が続き「さくらさくら」の独奏、誰もが知る日本古謡のこの編曲は重音やアルペジオで変化をつけ、指の動きがとても難しそうでした。相当練習したのでしょう暗譜での演奏に挑戦する意欲は凄いなあと思いました。続いて重奏で「赤花ひとつ」(写真)

二人とも年輩の方できっとアコ暦も長いのでしょうか年輪を感じさせるこなれた音が印象に残りました。左の方は80歳だそうです。一部の最後は「愛する人に歌わせないで」ベトナム戦争の最中1968年の作品で戦争で死んでしまった米兵、「パパはいつも見ていてくれるから二人で頑張って生きようね」と母親が坊やに語りかける歌だそうです。趣向を凝らし立奏で歌いながら登場。



二人とも年輩の方できっとアコ暦も長いのでしょうか年輪を感じさせるこなれた音が印象に残りました。左の方は80歳だそうです。一部の最後は「愛する人に歌わせないで」ベトナム戦争の最中1968年の作品で戦争で死んでしまった米兵、「パパはいつも見ていてくれるから二人で頑張って生きようね」と母親が坊やに語りかける歌だそうです。趣向を凝らし立奏で歌いながら登場。

### ♪第2部 音楽はやさしく踊る……………

第2部は、シャンソン、クラシックなどで構成されていました。「EN AMATEUR」はスペルからはアマチュア、気まぐれ等ですが、演奏者は「



↑エンディングの全体合奏「君をのせて」のーコマ

愛好家の牛」と詠じたそうです。ベースが3拍子を刻み、右手が6拍で進行するシャレた編曲で、明るい感じが出ていて新鮮でした。続く「ドミノ」は三人で演奏。その後は関東アコーディオン演奏交流会で毎年素敵な演奏を聴かせる二人、村上さんは愛用のボタンアコで「NANY」を、渡部さんはフリーベースで「バッハのフランス組曲」をそれぞれ演奏し、続けて二人で「スケーターズワルツ」の重奏、お二人の演奏は子守歌になりそうなほどいつ聴いてもほっとさせてくれます。

### ♪第3部 いつまでも平和を奏でたい……………

沢田研二作詞、大野克

夫作曲の「我が窮状」ピア

ノとアコーディオン伴奏

の歌で始まった。次にタン

ゴでお馴染みの曲「碧空」

を演奏した方(段落左側写

真の左の方)は、とても素

直なジャバラの使い方であ

り年齢を感じさせないし

っかりした演奏にびっくり

しました。今後も素敵な

演奏を楽しみにしています

。次の演奏は三人組み

の息のあった「グリーンス

リーブス」、よく知られた

曲ということもあり軽快な

テンポに会場の皆さんも

自然に身体がリズムをとっ

ていました。次も三人の

重奏で曲はフランス語で

「DU JOUR AU LENDEMAIN」

私は初めて聴く曲ですが

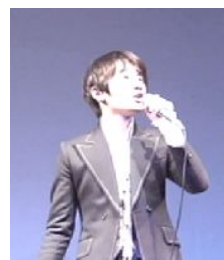
、タンゴのリズムのよう

できれいな演奏でした。

エンディングは全員合奏

で2曲、最初はムソルグ

スキー作曲の「プロムナ



ドスキー作曲の「プロムナード・古城(展覧会の絵より)」最後は久石譲作曲の「君をのせて」でした。

スポットライトを浴びて皆さん緊張気味でしたが全体にやわらかいほんのりとした演奏会で、周囲に椅子を追加するほどの満席でした。

(文：乙津)

